

令和6年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

*分野【a:国際交流・国際理解、b:地域連携、c:自然体験、d:環境教育、e:学力向上、f:交流体験、g:福祉・ボランティア、h:伝統文化、i:その他()】から選ぶ。

テ マ	「大蔵を知り、大蔵に学び、大蔵に働きかける子の育成」	分野	b	地域連携
	サブテーマ			
学校づくりの視点(ねらい)	<p>地域の豊かな自然環境や人的環境を生かし、積極的に地域から学び地域に発信する活動を通して、地域を愛し進んで課題を解決していくとする態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段できない体験をして見聞を広め、地域の自然に親しみ、地域に働きかける子の育成に役立てる。 ・学校公開日で、保護者や地域へ発信する力を養う。 ・地域の方とふれあう活動や体験を通して、先人の知恵を学ぶとともに、長幼に対する畏敬の念や郷土を大切に思う心を育て、自己の有用感を実感させる。 <p>○上記の内容を達成するために、次の学校補助員を配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間地の小規模校で児童・職員の手が足りないため、校地内の雑草の除去や敷地内の整備及び、学校園の畠つくりを、校内整備員にしていただく。 ・小規模校であっても、他の中・大規模校の児童に引けを取らない運動技能を身に付けた、明るく元気な児童の育成のために、体力向上補助指導員の支援を受けて体育の授業を行う。 <p>○地域学校共働本部と連携し地域の支援を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターを通して、学習活動に必要な地域の「ひと・もの・こと」を学校とつないでもらう。 			
活動内容・計画	<p>○低学年は、主に「地域を知る」活動</p> <p>学校周辺や学区の探検と他地域の見学を通して、大蔵地域の特色を捉える。また、地域の方との交流の中で野菜を栽培・収穫したり、生き物を飼育したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『野菜の栽培』 ・『生き物の飼育』『地域探検』『大蔵こども園との交流』『通年』 <p>○中学年は、主に「地域に学ぶ」活動</p> <p>地域の方の協力を得て、ヤマボウシの植樹や生育観察を継続する。また、学校周辺の動植物の観察、自然環境を調べて自然を生かした活動を創造する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ヤマボウシ活動』 ・『学校周辺の自然観察』『通年』 <p>○高学年は、主に「地域に働きかける」活動</p> <p>地域の歴史や文化・自然を調べたり、老人介護施設や地域の店舗の訪問・交流をしたりして、地域をより理解し、学んだことを積極的に地域に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『老人介護施設との交流』『夏・冬』 ・『地元の店舗の取組を調べ、地域に働きかける取組』『通年』 <p>○地域の方とともに活動する取組『通年』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上は、地域講師に登録していただいた方を講師として、クラブ活動を行う。児童ができるだけ多くの方とふれあいながら活動できるように、クラブ活動を2期に分けて行う。 			
補助員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・校内整備員 ・体力向上補助指導員 			
実績・期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習を行うことで、新たな発見があり、地域に対する興味・関心が高まっている。 ・栽培活動を通して収穫までの苦労と喜びを体感し、勤労の精神を養うことができた。 ・地域の方と一緒に学習・作業することで知恵や業を知り、親しみと感謝の心が育っている。 ・郷土での思い出づくりとして体験活動を実施し、郷土愛を高める。 ・学区配布の学校だより『げんきいっぱい大蔵っ子』(毎月1回発行)で取組の様子を紹介している。 ・ホームページには子どもたちの活動を毎日更新し、いつでも見ていただけるようにしている。 			
検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者アンケート」を実施し、特色ある学校づくり推進事業について評価していただく。 ・学校公開日後に、感想・意見を全保護者に書いていただく。 ・学校運営協議会や大蔵小学校後援会委員会の際に、感想や意見をいただく。 ・学校行事(入学式、運動会、学校公開日等)の際に、来賓の方から本校の取組に対する意見や感想をいただく。 ・児童の活動の様子や、事後の感想文や「振り返りシート」などを通じて検証する。 			